



経済的な自立がしたくて、この職業を選んだ小関 純さん。東田中建設で現場経験を重ね20年になる。続けられたのは、仕事が新鮮だったから。監督の仕事は工期や予算、職人さんとの打ち合わせなど、要望・要求は毎回違う。それこそがやりがいにつながったと話す。最近は現場管理以外に後輩育成も任され、果たすべき役割も増えた。今後の方向性や目標などを伺う。

### ●この職業を選んだきっかけ

将来の仕事を明確に決めて選んだわけではありません。親元を離れて、経済的に自立するのが目的でした。工業高校の土木科に入学したのも、それがひとつの理由です。

休日や給与で選んだ仕事でしたが、現場をこなすうちに「合っている」とすぐに感じました。図面に描かれた構造物が、少しずつ具体的な形になっていく。その新鮮な驚きがやりがいになりました。また、自分の携わった工事が、長期間使われ続けるというのも、感慨深いものです。

### ●仕事のこだわり、ポリシー

現場監督の初デビューは、入社から数年後の、22歳くらいのときです。場所は、生の松原方面の河川改修工事だったと記憶しています。「頑張ってきなさい」と任された現場だったので、ともかくミスしないように気を付けていました。

一緒に働く職人さんともしっかりとコミュニケーションを取り、「やりやすい現場」「安心できる監督」を意識していました。期間は半年くらいでしたが、終わった時の達成感は忘れられません。経験を積んだ今も、その緊張感は同じです。現場は関わる人材も使う機械も、環境は毎回変わります。だからこそ、どんな工事でも信頼関係がないと、満足がいく結果になりません。

### ●現場の魅力や責務

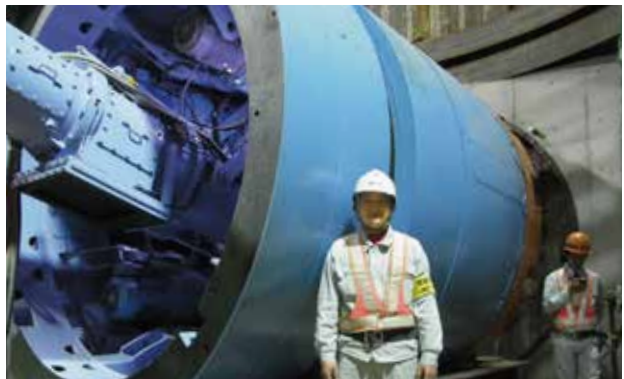
入社当時に、先輩から「図面や設計図、そして現場を見て、完成のイメージができないとダメだ。図面を見ながら建物ができる過程までを考えられないと、構造物をスムーズに完成に導けない。現場監督はそれができて当たり前」この言葉は、今でも頭の中に残っています。

10年くらい前から、意識せずにできるようになりました。現場には数多い人間が入り込みます。職人さんたちの安全確保や、対外関

## 担い手シリーズ 06

# 現場監督は平面から立体をイメージし現実化する仕事

小関 純 入社20年目(工事部)  
株式会社 東田中建設



係(地元対策)や、工程管理、品質管理などの施工管理を行い、工事を完成させることが私の責務だと思っています。

### ●仕事上で印象的なエピソード

浸水対策(中央区)で推進工事を行った時に、地上から約40メートル掘削した仕事は忘れられません。ビルの12階くらいの距離を、毎日往復していました。

ある時、地上から見下ろしたら、中にいる人が米粒サイズの小ささで驚きました。大深度の掘削に、埋没するヒューム管はφ3000ミリ。全てが経験したことのない、巨大サイズだったのを覚えていています。

### ●今後の目標

今は、後輩を育てる立場になりました。自分が入社した当時と状況は違いますが、ある程度現場を覚えたら、ひとつの仕事を任せるつもりです。現場に出たら、監督として引張っていく責任を体感させたい。

もちろん、わからないことがあれば、先輩の監督へ相談するのは問題ありません。そうやって動いた経験は次につながるし、しっかりと成果も出ます。達成感を身に付けて、仕事を通じて成長してほしい。それには、私もしっかりと伝える技術を学ぶ必要があると思います。



小関 純(おげきじゅん)  
大分県日田市出身。大分県立日田林  
工高等学校卒業。平成12年4月(株)  
東田中建設入社。

会社情報  
(株)東田中建設  
811-0213 福岡市東区和白丘2-3-10  
TEL.092-606-2000 / FAX.092-606-1500

<http://www.h-tanaka.com>